

ボンバルディア



詳しくは
コチラ



- スペイン・キミテック社が植物由来の天然資材を独自の技術で特殊発酵し、植物が吸収しやすいレベルまで堆肥化した有機活力液肥です。
- 肥料成分と微量元素のほか、アミノ酸、フルボ酸(腐植)、ペプチド、ベタイン、多糖類、ビタミンなどを多く含んだ「バイオスティミュラント資材(生物刺激剤)」です。
- ボンバルディアを施肥することで、土壌構造の改良と植物の品質向上のダブル効果が得られます。また、栽培過程や環境によるストレスを軽減することで健やかに生育し収穫量が増加します。
- あらゆる植物、生育ステージで使用可能です。
- 有機農産物栽培にも使用できます。



性状:液体 1ℓ 20ℓ

成分

肥料取締法に基づく主要な成分の含有率			その他の成分
窒素全量	リン酸全量	カリ全量	アミノ酸(13%)、多糖類(6%)、フルボ酸(23%)、カルシウム、鉄、亜鉛、ベタイン、ビタミンなど
8.0%	0.5%	0.5%未満	

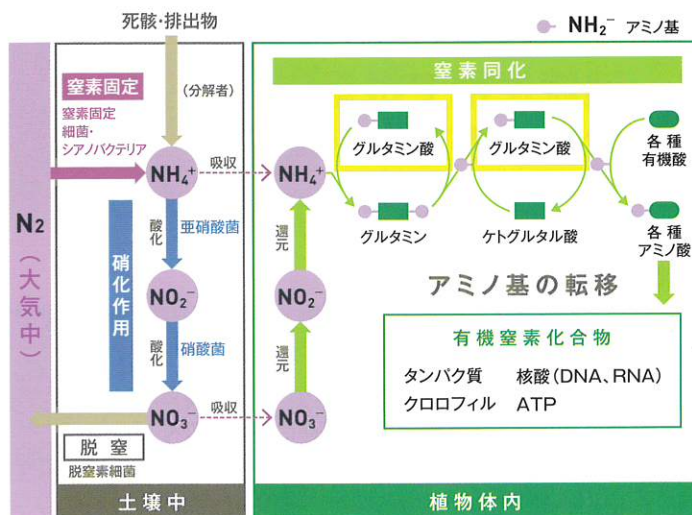
原料 てんさい廃糖蜜、小麦糖蜜、大麦糖蜜、とうもろこし糖蜜

ボンバルディアに含まれる15種類のアミノ酸の組成と働き


組成	主な働き
アラニン	クロロフィル合成を促します。
アルギニン	ポリアミンを増やし、根系の働きを促します。
グルタミン酸	生長を促し花粉や果実の質を高めます。
グリシン	葉と茎の生長を促します。
プロリン	植物の水分レベルを調整および糖分の合成を促します。
ロイシン	植物体内でのジベレリンの合成を促します。
セリン	酵素の触媒のために、重要なアミノ酸です。
その他	システイン、アスパラギン酸、イソロイシン、チロシン、トレオニン、パリン、フェニルアラニン、ヒスチジン

ボンバルディアに含まれるアミノ酸の作用メカニズム

- 植物体内では窒素同化が行われています。
- 硝酸態窒素または、アンモニア態窒素で吸収した窒素を還元してアミノ酸の元である「アミノ基(NH₂-)」を形成してから「グルタミン酸」をつくりだし、それを原料として、各種アミノ酸やタンパク質、クロロフィルを合成します。合成には時間とエネルギーを必要とします。また、窒素同化作用は植物の環境条件が悪い場合や、根などにダメージを受けて弱っている時などには低下します。
- 「ボンバルディア」には「グルタミン酸」をはじめ各種アミノ酸が配合されているため、時間とエネルギーを消費する還元工程を省き、すぐにアミノ酸やタンパク質合成に使用されます。



■ボンバルディアの植物と土壌への効果

植物への効果	<ul style="list-style-type: none"> 生長の促進 生産性と質の向上 ストレスに対する抵抗性を高める 実の大きさと質の向上 根系の状態を改善 代謝と酵素の活動を促進 細胞分裂の増加 	
土壌への効果	<ul style="list-style-type: none"> 土壌組織の改良 土壌の通気性を向上 養分の吸収を高める 保水力を高める 肥料の必要性を軽減する 有用微生物のえさになる 	

ボンバルディア / 使用時のストレス軽減イメージ図



■施用量・施用方法・使用用途

- 原液を水でうすめて施用してください。

施用方法	施用量	
葉面散布	1~3ml / ℓ (300~1,000倍)	
液肥灌水	点滴灌水	500~1,000ml / 10a (1反)
	地表灌水	250~500ml / 10a (1反)
	集中灌水	2,000ml / 10a (1反)

使用用途	施用例
野菜、花き類 (ハウスおよび露地)	各生育ステージの初期段階や栽培サイクルを通し、土壌・植物の特長や栽培環境に応じて、作づけから継続的に施用します (4~6回程度)。
果樹類	着蕾の初期や果実肥大期など、植物が養分を多く必要とする時期に合わせて施用します。 4回施用：着蕾初期2回、果実肥大期2回 植えつけや弱剪定処理など、植物にストレスがかかる時に施用します。

- 最も効果的な施用方法として液肥施用がおすすめです。液肥施用により、有機物やフルボ酸などが土壌組織・構造を改善し、植物体へのストレスを軽減します (植物と土壌へのダブル効果)。